

教育プログラム・コースの概要

大学名等	久留米大学大学院医学研究科修士課程看護学専攻						
教育プログラム・コース名	専門職養成コース がん看護分野 CNS養成						
対象者	看護師						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	幅広い視野から、困難で複雑な健康問題を抱えた患者・家族の療養生活を捉えることができ、豊かな知識と高度な看護実践能力を持つ高度実践看護師。地域・施設を越えて、がん患者と家族を中心とした地域システムの中で多職種との調整力を持ち、ベストプラクティスを導き出せる力を持った看護師。						
修了要件・履修方法	必修科目38単位以上を取得し、最終専攻に合格すること。大学院終了後は日本看護協会の高度実践看護師認定試験に合格することを目標とする。						
履修科目等	<p><必修科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通科目A+B合計14単位 A:看護倫理、看護研究方法、看護政策論、看護理論、コンサルテーション論、B:臨床薬理学概論、フィジカルアセスメント、病態生理学、専攻分野共通科目6単位:がん診断治療学、がん看護特論、がん看護援助論、専攻分野専門科目8単位:がん薬物療法看護特論Ⅰ、Ⅱ、がん緩和ケア特論、がん緩和ケア地域連携援助論(すべて2単位)、実習10単位:がん看護学実習Ⅰ～Ⅴの計38単位以上 ・ e-learningによる履修 						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	高齢がん患者やがんで在宅療養する患者が多い現状で、本地域は、地域緩和ケア施設や携わる医療従事者が多いという特徴がある。本大学は、いち早く在宅看護学実習を取り入れて、地域における多職種連携の実践をしている。そのような中で在宅ケアに社会が求めるニーズは、在宅療養を推進する地域コーディネイト力や他職種間の役割を最大限に生かす調整力を持った人材、地域住民に対する啓発活動を実践するための教育的スキルを持った人材の育成であることが課題として実感できた。そこで本コースは、日本看護協会が認定する高度実践看護師養成のための科目に加えて、総合大学という強みを生かし教育学のスペシャリストとコラボレーションし、小集団学習、リーダーシップ論の講義・演習を行ない、がん緩和ケア地域連携力の向上をねらうプログラムとする。また、地域における多職種連携を推進する実践では、本コースの在宅看護学実習における困難な事例でも、IPW（インタープロフェショナル教育ワーク）を用いた事例検討により、組織的な問題解決能力を修得することができ、地域が求めるコーディネート力が発揮できる人材を育成できる教育プログラムとなる。						
指導体制	久留米大学大学院医学研究科 教授 原 頼子、教育学のスペシャリスト2名、医学部看護学科専任教員6名、兼任講師（がん看護専門看護師）3名						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	第1期がんプロから、コース履修者と修了生により構成される久留米ネットワークを形成し、キャリアディベロップメントを行い、個々のキャリアプランを支援している実績がある。継続教育では資格審査受験への支援、資格取得後では、組織の中で感じている専門職者としてのジレンマに関する相談や、組織構築上の問題に対しスーパーバイズを行っている。さらに、がんプロ共催による久留米ネットワークセミナーを毎年開催し、高度実践看護師コース修了生のフォローアップのみならず、インテンシブコース履修生への質の高いがん看護実践力の向上が図れる。すでに修了生の中からロールモデルとなる人材が育っている。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師		2	2	2	2	8
							0
							0
							0
	計	0	2	2	2	2	8